

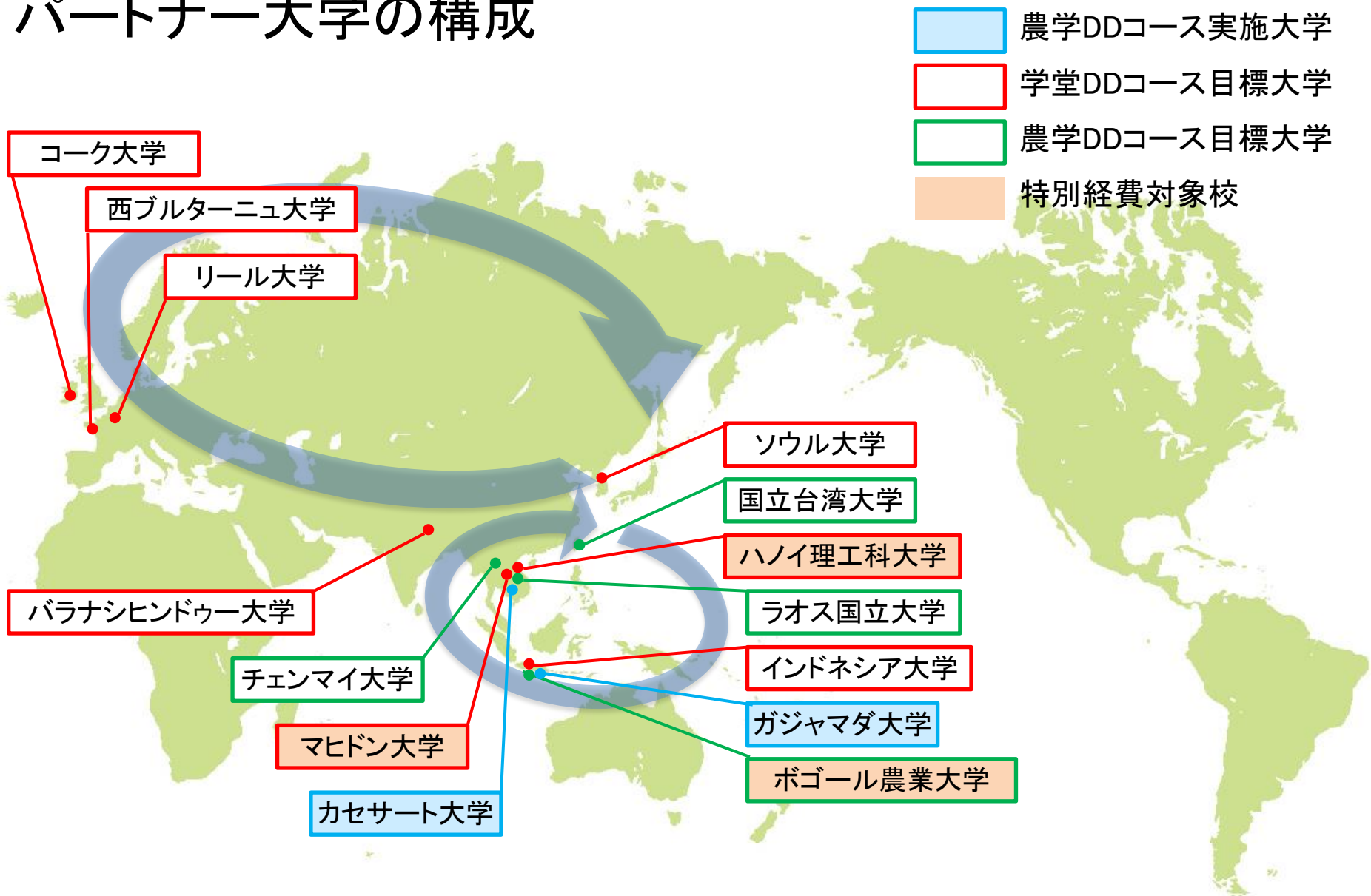
スーパーグローバル大学創成支援
「京都大学ジャパンゲートウェイ構想」
参画計画

大学院地球環境学堂・学舎
大学院農学研究科

概要

- 環境学を求心的に包含する複数の大学院と、学生交流、研究交流、単位互換制度、ダブル・ディグリー制度の導入を目指した国際交流を推進する。
- カウンター・パートは、EU構成国・ASEAN構成国を中心とした欧米10ヶ国12大学、アジア12ヶ国20大学を予定。
- 京都大学が先進国・途上国双方を包含する学問的ハブとして、環境学における教育・研究の国際展開を目指す。

パートナー大学の構成



✓ 交流推進大学は、欧米10ヶ国12大学，アジア12ヶ国20大学

地球環境学の国際的ハブ構築を目指した段階的交流推進

地球環境学の教育・研究における国際的ハブ形成へ

ダブル・ディグリー制度の確立
(ジョイント・ディグリーを含む)

国際共著論文の増加

単位互換制度に基づく国際
共同教育プログラムの構築

研究交流・国際共同
研究の推進

学生交流・派遣

学生交流・受入

インターン研修等

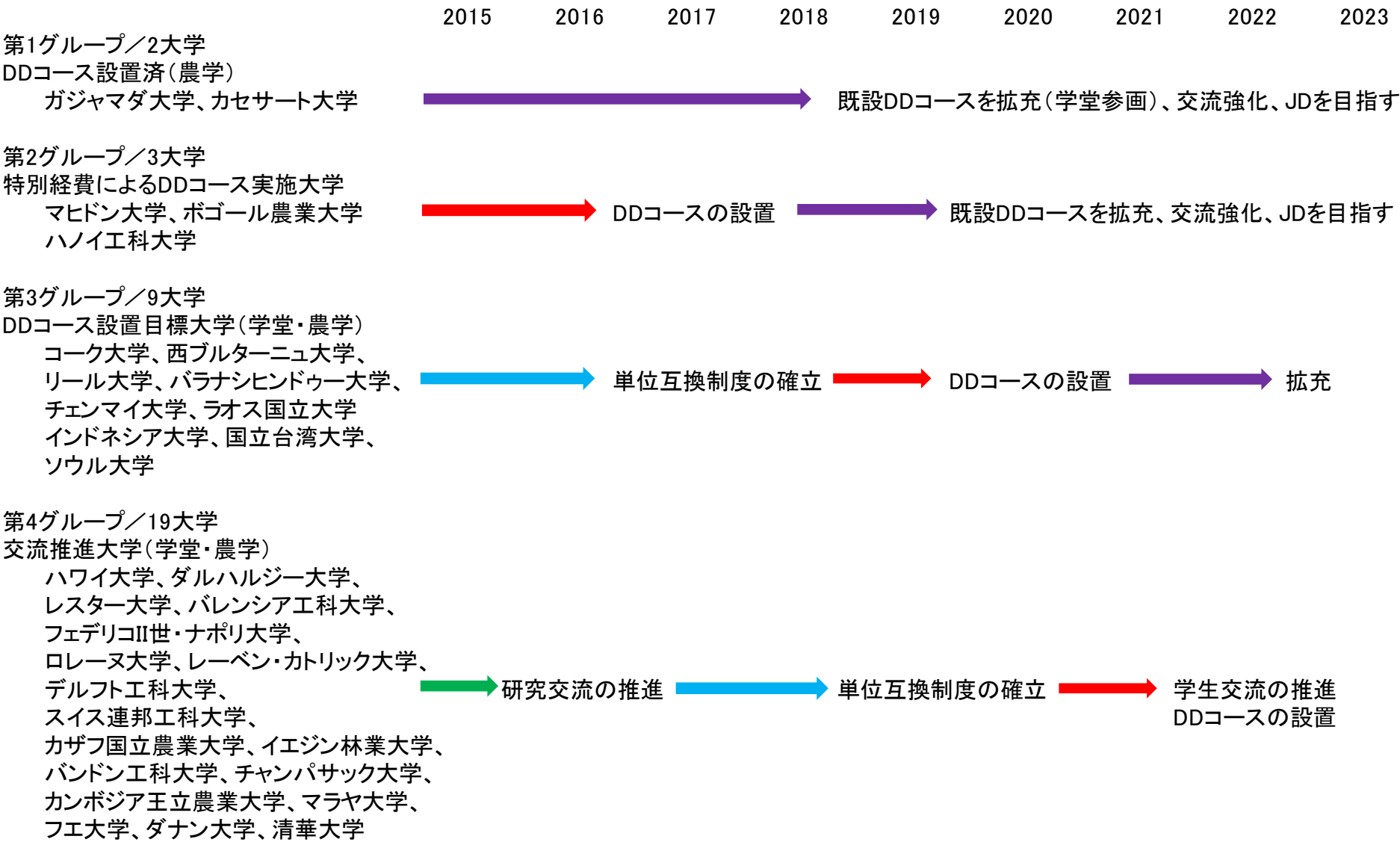
特別聴講学生
特別研究学生

学術交流協定・学生交流協定の締結

これまでの準備状況

- 地球環境学堂においては、これまで特別経費、科学技術戦略推進費等、獲得資金を利用して、特別聴講学生の受入れ、インターン研修学生の派遣などの実績を積む。
- 上記活動は、一部単位互換制度として結実。
- またJSPS「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」(H26～H28)により、欧米諸大学と研究交流を促進、今後の学生交流の拠点形成。
- 農学研究科においては、大学の世界展開力強化事業をきっかけとして、すでに東南アジア2大学とダブル・ディグリー制度を実施。
- 両部局参画のH27特別経費「海外サテライト形成によるASEAN横断型環境・社会イノベーター創出事業」が開始。国際化拠点形成の準備が整う。

段階的交流推進をふまえた年次計画



期待される成果

- 地球環境学舎の「インターン研修」、農学研究科の「サマースクール」の拡充による学生の国際性獲得(教育効果)、活動結果としての国際共著論文の増加(研究への波及効果)。
- 特別聴講学生, 特別研究学生受入拡大に伴う, 潜在的博士課程入学者の増加と博士課程のさらなる国際化への波及効果。
- 単位互換制度に基づく国際共同教育プログラム構築と, これを核としたダブル・ディグリー, ジョイント・ディグリー制度への加速度的展開。留学生数の増加。
- 京都大学が, アジア諸国, 欧米諸国双方を包含する学問的ハブとして, 環境学における教育・研究の国際展開を牽引する役割を担う。